

平成24年度第6回国立市立学校給食センター運営審議会記録（要旨）

日 時	平成25年6月27日（木）午後2時00分から午後3時50分
場 所	国立市立学校第一給食センター会議室
出席委員	16名
欠席委員	2名
傍 聴	なし
事務局	6名（村山所長、原田、山崎両主査、久保、横山両栄養士、後藤主事）
議 題	①平成24年度事業報告について ②平成24年度学校給食費決算報告について ③平成24年度事業総括について ⑤その他

1. 開会挨拶（藏重会長）

本日はご多用の中を出席いただきまして、誠にありがとうございます。

これより平成24年度第6回国立市立学校給食センター運営審議会を開始します。

2. 平成24年度事業報告について

事務局から、本日が平成24年度の最終会議のため年度として取りまとめた旨を説明し、具体的には資料に基づき、前回2月21日の審議会以降本日までの給食センターにおける主な事業、放射性物質の測定結果等についての報告を行った。

なお、主な事業において6月19日に実施していただいた学校給食費収支状況監査が欠如していたので補足説明した。

【主な意見等】

- ・3月22日の平成25年国立市教育委員会第3回定例会でのアメリカ産牛肉を使用しないほしいとの要望は、アメリカからの輸入の検査体制が緩和されるのを受けての要望と思うが、今後も牛肉は使用しない方向で実施していくのか。
→今後も牛由来の原材料は使用しない方向で実施して行く。

3. 平成24年度学校給食費決算報告について

事務局から資料に基づき、平成24年度の学校給食費の決算報告を行い、併せて監査員から監査の報告があった。給食費の決算報告については特に意見もなく承認された。

4. 平成24年度事業総括について

事務局から資料に基づき、平成24年度の事業総括について報告した。

【主な意見等】

- ・米飯給食は週3回以上の実施を達成し今後も拡大に努めるということだが、給食センターには炊飯器はなく蒸気釜で実際には煮るという形で炊き上げている。回数を増加するにあたって炊飯器の導入は考えているのか。
→炊飯設備を設置することはスペース的に困難なため、引き続き蒸気釜にて炊き上げることで考えている。
- ・アレルギー対応について、コンタミネーションにおける情報についてはどの範囲まで保護者に伝達されているのか。
→資料配布を希望される保護者にはアレルギー物質の包含と含量の資料を配布しているが、製品によってはこの製品は小麦粉を使った製品と同一のラインで製造しているなどの表現が入っている。
給食センターは全ての加工品に対して把握しているとの理解で良いか。
→無条件で全てということではなく、必要に応じて個別に照会し確認するなどして2段階での対応として理解願いたい。
- ・現年度給食費の徴収率が平成23年度と比べ0.32ポイント向上したとのことだが原因をどう捉えているか。
→事務的な部分、具体的な徴収業務などいろいろな要素が加わった中での結果と考えている。催告封筒を茶色から黄色に変えたことや同日の時間帯を変更してや連日の集中的な電話連絡、さらに連絡が取れない方には訪問するなどの対応を行った。また、審議会で給食費の未納問題を審議していただいたことや学校側にも可能な範囲での協力をお願いしたことも大きいと認識している。
- ・給食費の未納が大きな問題になっている中で努力していただいたと思っている。安全・安心の確保では産地の詳細資料や放射性物質の測定の実施と大変感謝している。いろいろ努力していることに感謝したい。
→6月の定例市議会で補正予算案が可決され、外部検査機関での放射性物質測定件数が61回から116回に拡大することができた。具体的には使用頻度の多い米やチーズ、生クリームなどの乳製品の測定頻度を増やすことを考えている。
- ・他の自治体でアレルギー対応マニュアルを作成し対象児童・生徒に配布するという新聞報道を見たが、国立ではそのような取り組みの予定はあるのか。
→マニュアルとしては給食を含んだマニュアルと実際の対処のマニュアルという大別すると2通りがあり、実際の対処マニュアルが大半と認識している。対応マニュアルは文部科学省で発行したものがあってそのマニュアルに基づき実施しているので、現段階では新たなマニュアルを作成するという考えはない。

5. その他

今回が平成24年度の最後の審議会のため、各委員から挨拶をいただいた。

荒金委員：1年間運営審議会に参加し、真剣に給食について話し合っているということがわかり意味のある会議だと認識した。他の職員にも伝えたいと思う。ありがとうございました。

大柳委員：給食のいろいろな課題にセンターや保護者の方が取り組んでいる姿に驚き、大変勉強になった。今後も安全で楽しくおいしい給食が提供されていけばいいと思う。1年間ありがとうございました。

黒岩委員：給食センターが努力して安全でおいしいものを主に考えていることが理解できた。1年間ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

麻生委員：栄養のバランスのとれたおいしい給食を毎日子どもたちに提供していただき本当に感謝している。委員を経験して日々の生活でも食に対してもっと関心を持って行きたいと思う。これからもよろしくお願いします。

大谷委員：平成24年度からはPTA役員からの選出ということで参加した。従ってPTAへの伝達もスムーズで各家庭にも声が届きやすかったと実感している。平成25年度も引き続き委員を引き受けるのでよろしくお願いします。

石井委員：1年間はあっという間であった。車酔いと闘いながら出かけた東毛酪農業協同組合への視察や監査は良い思い出と経験になった。私自身は自校方式であったので給食の作り手が見え大変親しみがあつた。委員として携わるまではセンター方式ではどうかと思っていたが、精一杯頑張っていたいただいており、さらに情報を公開している開かれた会議であったと思う。これからも開かれた給食センターであってほしい。1年間ありがとうございました。

池田委員：1年間ありがとうございました。アレルギー、食の安全、給食費未納、放射能とさまざまな課題がある中で、このような会議で関係者が話し合える場があるということは大変貴重であると思った。この仕組みがこれからも良い形で継続されることを願う。平成25年度も委員として参加するのでよろしくお願いします。

矢田委員：委員として4年間携わってきたが今回で交代する。放射能の対応には感謝しており、これからも給食センターには頑張ってもらいたい。学校と給食センターと保護者で一緒になって考えなければいけない問題は沢山あると思うので、今後もよろしくお願ひしたい。ありがとうございました。

三浦委員：1年間ありがとうございました。国立での放射性物質の検査体制は本当に素晴らしいと感じた。給食費の未納の問題、TPP、遺伝子組み換えなど心配なこともあるがこれからもよろしくお願ひしたい。

長谷川委員：1年間ありがとうございました。給食センターと学校とPTAがしっかりお互いを理解して連携して行くことが不可欠と思う。この審議会がそれを機能させるために大きな役割を担っており国立市の財産だと思うので、国立の給食がこれからもそういう大切

な財産を担っていけるような運営をしていただくことを望む。

サキヤ委員：1年間ありがとうございました。食物アレルギーの対応についても早く対応していただき、学校を含めて皆が協力して考えているということの間近で感じ、とても良い経験であった。これからもこのような形を継続し、子どもたちに楽しい、安全な給食を提供してほしいと思う。

張委員：アレルギーは少しのことでも大変なことに至りかねないので本当に大変なことだと思う。子どもたちはお昼に給食だが、食育としては1日で朝から晩までの食事となるので家庭でも子どもの嗜好に合わせるなど健康的な食事に努めてほしいと思う。

高須委員：給食は生産者から給食センターと多くの関係者の努力が入っていると思う。あとは子どもたちが少しでも残さないで食べてほしいと思う。平成25年度も引き続き参加するのでよろしくお願いします。

唐澤副会長：保護者の声を吸い上げる場であるこの審議会は本当に財産だと思う。子どもたちのために一生懸命に努力していただいて大変感謝している。平成25年度も引き続き委員として参加するのでよろしくお願いします。

藏重会長：事業総括に表された数字を見て、実際動いた結果の形だろうと思う。6回の審議会の中には様々な意見の交換もあったかもしれないが、こうして気持ち良く終了できることを大変感謝している。平成25年度も引き続き参加するので継続される委員の方々にはよろしくお願いします。

事務局：1年間、ありがとうございました。皆さんもお話されたとおり保護者と学校、そして給食センターの関係が太くないと美味しい給食は作れないと思っている。本当にいろいろな課題についてご審議いただき、その結果が総括に反映されたと思っている。委員を降りられても今後も給食センターにお力添えをいただけますよう、よろしくお願いします。

6. 閉会挨拶（藏重会長）

以上をもちまして、第6回学校給食センター運営審議会を終了します。

一年間本当にお疲れ様でした。